

セナリヨと ヴァリニャーノ

南島原に導入された西洋式教育の先駆け



セナリヨとは、16世紀にヨーロッパの教育制度を導入して設置したキリシタンの中等教育機関です。イタリア人でイエズス会の巡察師ヴァリニャーノは、1580年4月にキリシタン大名有馬晴信の援助を受けてセナリヨを日野江の城下町に設置。セナリヨでは、ルネサンス期の最先端の教育が行われていました。

外国語（ラテン語）・音楽・美術・地理学など、セナリヨでは、現代の教育をほうふつさせるような学校教育が、400年以上前の南島原に導入されていたのです。生徒は九州各地や当時の都であった京都・大阪、さらにはマカオ生まれのポルトガル人など、留学生も当時の在校生名簿に名を連ねています。有馬のセナリヨからは、日本で初めてのヨーロッパ派遣団「天正遣欧少年使節」をはじめ、多くの国際人を輩出しました。

セナリヨは伴天連追放令規模拡大などのため移動しましたが、1580年から1614年までの国内設置期間中、ほとんどの期間が南島原に設置されています。南島原市内では移動しながら北有馬町、加津佐町、有家町に置かれました。

少年たちが学んだラテン語の授業
セナリヨでは、外国語の授業もありました。今回はセナリヨの生徒たちが学んだラテン語を入門編で体験しました。日本人が初めて目にしたアルファベットと初めて学ぶラテン語がどのように教えられたのかを体験しました。

イエズス会が重要視した茶の湯を体験
当時、戦国時代の日本でイエズス会が重要視した茶の湯も体験。イエズス会はセナリヨ・教会建設に際しては茶室の設置を指示しており、セナリヨ

4人をイタリアへ派遣
受講生の中から4人を12月に平成遣欧少年使節団としてイタリアへ派遣します。今回の授業再現は団員の選考も兼ねており、昨年に引き続き、南島原市内から4人が派遣団員として、天正遣欧少年使節がたどったイタリアでの訪問地を訪れます。

世界遺産との位置づけ
現在、長崎の教会群とキリスト教関

連遺産を、ユネスコの世界遺産に登録するための活動が県内外で行われています。本市はキリスト教の繁栄と弾圧を担当しています。今回のセナリヨの授業再現事業は、キリスト教の繁栄の基礎を作った南島原市の役割をアピールするために実施しました。

セナリヨは弾圧のため、閉校に追い込まれ、現在はその姿を見ることはできません。しかし、セナリヨの卒業生たちが地域リーダーに教える伝え、潜伏の精神的支柱として復活までの250年間を支え続けたのです。現在の長崎の教会群は、セナリヨが姿を変えて私たちの目の前にあるとの専門家の指摘もあります。世界遺産の候補となっている長崎の教会群のスタート地点こそが、南島原市なのです。



織田信長により日本が天下統一されようとしていた1580年。南島原市に日本で初めてイエズス会の中
等教育機関「有馬のセナリヨ」が
創立されました。日本史で有名な天
正遣欧少年使節団は有馬のセナリ
ヨの第1期生でした。当時、ローマ
に報告されたセナリヨの日課表に
より400年前の戦国時代、南島原
で日本人が初めて体験したセナリ
ヨの授業を再現しました。

今回は、受講生の中から4人を12
月末にイタリアに派遣する団員の選
考も兼ねて行いました。主催は南島
原市世界遺産市民協議会でした。

**ローマに伝えられた日課表を
基本に戦国時代の授業を再現**
セナリヨでは戦国時代の日本であ
りながら、はるかヨーロッパのルネサ
ンス期の教育課程が導入されました。
全寮制のセナリヨでは、午前4時30
分起床、食事は1日2回など、当時の
日本人の生活にも配慮したプログラム
が組まれていることから、今回は40
0年前の少年たちと同じ日程で授業を
行いました。

**日本人が初めて聞いた
西洋音楽にチャレンジ**
セナリヨでは、毎日1時間の音楽
の時間があり、情操教育に力を入れて
いました。当時、日本人が初めて聞い
た西洋音楽、少年たちが歌っていたグ
レゴリオ聖歌をラテン語でチャレンジ
しました。

食事は南蛮料理を再現
協力した有馬歴史研究会では、ヨー
ロッパに伝わる文献を参考にスペイ
ン・ポルトガル・インド・アジアの影
響を受けた南蛮料理8品を再現しまし
た。当時のイエズス会は5段階の供応
料理で日本人をもてなすよう指示して
います。今回は大名レベルの最高ラン



西洋音楽再現の時間。少年使節についても学びました。



難解なラテン語は400年前の生徒たちも苦労したはず。



再現された南蛮料理。文献に基づき8品を再現。



茶道の時間。帷子の衣装で臨んでみました。



夕食は南蛮料理が振る舞われました。



遠足の時間。日野江の城下町を散策。